

園児のバス置き去り 確認を繰り返し防げ

静岡県牧之原市の認定こども園で、3歳の園児が送迎バスに取り残されて死亡した事件から、1カ月がたった。県内でも置き去り事故の対策強化が進んでいる。ある幼稚園の送迎バスの運用状況を見ながら、事故を繰り返させないためのポイントを考えてみた。

(伊藤蘭莉)

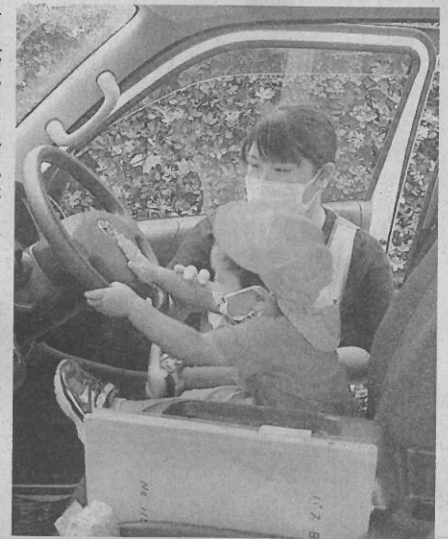
進む対策強化

佐倉市の私立臼井幼稚園 ち約85%が送迎バスを利用では、園児約200人のうち、バスは4台で、

それぞれ毎回2、3便運行している。1便に最大で園児約30人が乗車し、多い場合には16カ所の停留所を分刻みで回っている。同園では、園児の降車確認を複数人で繰り返し実施している。各バスの到着後、運転手と乗務員が確認したうえで、最終便が到着した後

には、園で到着連絡を受けた事務職員も全車両内を確認する。さらに、バスを施錠する際にも運転手が再び確認作業をする。施設時の確認は、静岡県での事故を受けて追加した。1席ごとに座席の消毒やシートベルトを整える作業もあり、志田裕美子園長は「園児を見落とすことはない」と話す。

ただ、送迎バスの乗車管理には、頻繁な変更がつきものだ。園児の保護者はスマートフォンアプリを使って、朝7時15分までに出欠や送迎バスの利用・不要



銚子市の飯沼幼稚園でも園児がバスのクラクションを鳴らす訓練が実施された＝9月、銚子市

者からの連絡がなともある。志田園長は「バ前や出発後に変車ると、ミスが起きすごく複雑で神経ただ、数年前に入したことで、毎りなしで鳴っているからの電話が減う。「幼稚園は慢

乗車管理、アプリで作業減 ■クラクション鳴らす訓練実施の園が増



送迎バスの到着連絡を無線で受け、園児の降車を確認する事務職員＝佐倉市の臼井幼稚園

■保育現場の事故対策などを解説した「保育所・幼稚園 危機管理マニュアル」掲載の送迎バスに関する予防チェックリスト（抜粋）

- ◇ 車両ごとに運行日誌を記録しているか
- ◇ 運転手以外に職員を1人以上添乗させているか
- ◇ 運転手と添乗員に定期的に研修を行っているか
- ◇ マニュアルが作成され、職員全員に周知されているか
- ◇ 降車後の引き継ぎが適切に行われているか
- ◇ ヒヤリハット事案を記録し、会議で報告・検討するなど分析・整理を行っているか
- ◇ 園児一人ひとりの命と日々向き合っていることを自覚し、園児の目線でも物事を見る姿勢を持っているか

施設の指導、自治体は徹底を

「保育所・幼稚園 危機管理マニュアル」を執筆した1人、明星大学の斎藤政子教授（保育学）の話 幼保施設での送迎バスの置き去り事故を防ぐには、降車後の確認が欠かせない。子ども用の座席は低く、座っていれば見渡せるが、前方からでは死角がある。居眠りをしたり、登園を嫌がり背もたれの後ろに隠れたりする子もおり、必ず車両後方まで行って確認する必要がある。

各幼保施設では、送迎バスに関してやるべき事をチェックリスト化し、毎回リストに印をつけながら確認作業をすべきだ。園児の目線で物事を見るという姿勢も重要。人間はミスを犯すものという前提で安全管理を見直し、職員に周知徹底させることが大事だ。

福岡県では、昨年7月、県内の保育園で送迎バス内に園児が取り残されて死亡した事件を受け、保育施設における送迎バスの安全管理標準指針を作成した。ほかの自治体でも安全指針を作り、保育施設の指導を徹底すべきだ。

は、通園に使われの安全装置の設置する方向で、補助をしている。車内ザーなどが想定される。

県によると、送保する施設は、園384園のうち（5月1日現在）など2441施設月現在）のうち約いう。ただ、県に重大な事故以外は報告は不要で、ヒト事例は把握している。各担当課は各施設などに注意知を出した。